

## 統計用語の解説

※過去に公表した「調査分析レポート」で引用された統計用語の解説を編集したものです

### あ行

#### 因子分析

因子分析は多数の評価項目（あるいは測定変数）の背後にある判断軸や共通軸を抽出する統計的手法といえます。

【参考】「ある学生のグループに 100 の異なる能力検査を行えば、各検査で得られるスコアの間には多分、相関が見られるでしょう。その検査は多分、会話力、数学的才能、判断力、および知覚速度のような、同様の特性のうちのいくつかを測定しているものでしょう。これらの特性は、体重や年齢のように明確に定義できて容易に測定できるような変数ではありません。かわりにそれらは、関連する変数群への応答を特徴づける統一的な概念やラベルとして考えられます。数学的な才能に優れた人は、数学的な能力と関連づけられる検査の全てにおいてよい点を取るでしょう。実際、このようにして数学的な才能の定義が行われます。因子分析 (Factor analysis) は、そのような概念を測定しようとする統計的手法です」。

(『SPSS による統計学入門』マリア・ノルシス著、山本嘉一郎・森際孝司・藤本和子訳、東洋経済新報社 1994 年、p283)

#### インプリシット・デフレーター

県内総生産のデフレーターは、総生産の各構成項目（農業、建設業など）ごとに実質値を求めたのち、(県内総生産の名目値) / (県内総生産の実質値) として逆算によって求められたものです。このように事後的に求められたデフレーターをインプリシット・デフレーターといい、この値が小さくなるほど名目値に対して実質値が大きくなります（押し上げられます）。

### か行

#### 回帰直線

データが分散する状態において、統計学的に予測値を求めるときに用いられる直線のことです。

#### 回帰分析

家計の収入と支出のように、一方の変数が他方の変数の決定要因又は説明要因と考えられるとき、最小二乗法等によって回帰式を推定し、両変数の関係を分析するものです。

#### 幾何平均

幾何平均とは、観測データの代表値を表す代表的指標の 1 つで、伸び率などを平均で比較する際に利用される指標です。個々の量的データを全て掛け合わせた積を、そのデータの個数で開いた根で求めることができます。

例えば、データ A、B、C・・・、n 個の幾何平均は下記の式によって求められます。

$$\text{幾何平均} = \sqrt[n]{(A \times B \times C \cdot \cdot \cdot)}$$

## 寄与度

寄与度は、特定の内訳の増減が全体をどれだけ増減させたかを表し、「当該内訳の増減／前期の全体値」により計算され、合計は全体の増加率に一致するものです。

## 景気基準日付

主要な経済指標の中心的な転換点で、転換点とはいわゆる景気の山・谷のことです。

## 景気動向指数

景気動向指数とは、生産、雇用など様々な経済活動での重要かつ景気に敏感な動きを統合することによって、景気の現状把握及び将来予測に資するために作成された統合的な景気指標です。

景気動向指数には、以下のものがあります。

### (1) C I (コンポジット・インデックス)

景気に敏感な指標の量的な動きを合成した指標で、景気変動の大きさやテンポ(量感)を測定することを目的としています。

### (2) D I (ディフュージョン・インデックス)

景気に敏感な諸指標を選定し、そのうち上昇(拡張)を示している指標の割合を示すもので、主として景気転換点(景気の山・谷)の判定に用いられます。

## さ行

### 就業率

就業率と対峙した概念に失業率があります。就業率は就業者数を人口で除しているのに対し、失業率は失業者数を労働力人口で除しています。このため、100%から就業率を引いた率が失業率になるわけではありません。特に、高齢者や学生などの従属人口が多い市町村では、失業率が低い場合でも、相対的に就業率が低くなる可能性があることに注意が必要です。

### 相関係数

2つの変量間の相関(かかわり合いの度合い)を示す統計学的指標のことです。

相関係数は、-1から1の間をとり、1に近いときは2つの変量には正の相関(片方の値が上がれば、もう片方の値が一定の割合で上がる関係)があるといい、-1に近いときは負の相関(片方の値が上がれば、もう片方の値が一定の割合で下がる関係)があるといい、0に近いときは相関が弱いことを示します。

どれぐらいの数値を超えれば相関が強いといった統計学的な基準はありません。

## な行

### 年齢(3区分)別人口

総人口を年少人口(0歳から14歳)、生産年齢人口(15歳から64歳)、老年人口(65歳以上)の3区分に分けたものです。

## は行

### 一人当たり国（県・市町村）民所得

雇用者報酬のほか、財産所得や企業の利潤など国（県・市町村）民や国（県・市町村）内の企業などが得た所得の合計を各年 10 月 1 日現在の総人口で割ったもので、国（県・市町村）経済全体の所得水準を表す有効な指標ではありますが、個人の所得水準を表す指標ではないことに留意する必要があります。

### 偏差値

偏差値とは、平均値を 50 に、標準偏差（ばらつき）を 10 に対応させて標準化した数値のことです。

## ら行

### 労働力率

労働力率とは、総人口に占める労働力人口の割合を示し、労働力人口を総人口で割り返すことで求められます。

### 労働生産性

労働力（単位時間当たりの労働投入）1 単位に対してどれだけ価値を生めたかを示す指標のことです。